

| | | | | |
|----------|---|------|-----------------|---------|
| 免許状教科 | 中学校1種(社会)・高等学校1種(地理歴史・公民・商業) | | | |
| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 科目分類 | 教職科目 | |
| | | | 経済学科 | ■必修 □選択 |
| | | | 学科 | □必修 □選択 |
| 英文表記 | Practical Seminar for Teaching Profession | 開講年次 | □1年 □2年 □3年 ■4年 | |
| ふりがな | いちほら みつまさ | 開講期間 | □前期 ■後期 □通年 □集中 | |
| 担当者名 | 市原光匡 | 修得単位 | 2単位 | |
| 授業のテーマ | 教育実習の経験をもとに、教育指導や生徒指導・諸問題への対応などの実践力を磨く。 | | | |
| 授業概要 | これまでに主として授業を通して獲得してきた教科や教職に関する知識・技術と教育実習などによって得られた経験との融合をはかり、教員に求められる資質・能力を確かなものにするを旨とする。具体的には、教員に求められる役割や使命、問題への対応や生徒の理解、学習指導案の作成と模擬授業の実施など、ディスカッションやグループ・ワークなどの参加型の授業を予定している。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員に求められる役割や使命について深く理解し、説明できること。 2. 生徒や諸問題により効果的に対応できる能力を身につけ、実践できること。 3. 学習指導案のブラッシュアップを図り、改善された学習指導案を作成できること。 | | | |
| 授業時間外の学習 | これまで履修してきた教職課程の授業や教育実習の体験をふりかえること。学校をめぐるさまざまな問題について整理し、自らの考えをもつようにすること。 | | | |
| 履修条件 | 教育実習を終えた学生を対象とする。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | |
| 第2回 | これから教員に求められる資質・能力 | | | |
| 第3回 | 保護者の理解と対応 | | | |
| 第4回 | 諸問題への対応(1) 学級崩壊 | | | |
| 第5回 | 諸問題への対応(2) いじめ | | | |
| 第6回 | 諸問題への対応(3) 不登校 | | | |
| 第7回 | 進路指導のあり方 | | | |
| 第8回 | 学習指導の理論と方法 | | | |
| 第9回 | 指導案のふりかえりと改善策の検討 | | | |
| 第10回 | 模擬授業(1) | | | |
| 第11回 | 模擬授業(2) | | | |
| 第12回 | 模擬授業(3) | | | |
| 第13回 | 模擬授業(4) | | | |
| 第14回 | 模擬授業の検討会 | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | |
| テキスト | テキストは特に指定しない。なお、授業のレジュメ(要約)のプリントを配布する。 | | | |
| 参考文献・資料 | 西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック—ポートフォリオで共視力アップ』ミネルヴァ書房, 2013. | | | |
| 成績評価の方法 | 平常点30%、模擬授業40%、定期試験30%で評価する。 ・出席回数が規定に満たない場合は定期試験を受験することができない。 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 成績評価基準 | <p>【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>【平成28年度(2016)以降に入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> |
| オフィスアワー | ① 毎週火曜 10:40~12:10 ② 毎週金曜 10:40~12:10 |
| 学生へのメッセージ | 参加を前提とした授業である。積極的な参加を期待する。 |